

令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
足利市立青葉小学校	足利市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

本市全小学校において、平成15年度より取り組んできた英会話学習の内容と外国語活動・外国語科の内容を関連づけた独自の年間指導計画を作成し、「話すこと」「聞くこと」に特化した指導を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

必要となる教育課程の基準の特例については、「教育課程特例校編成の基本方針等について」を参照。

2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

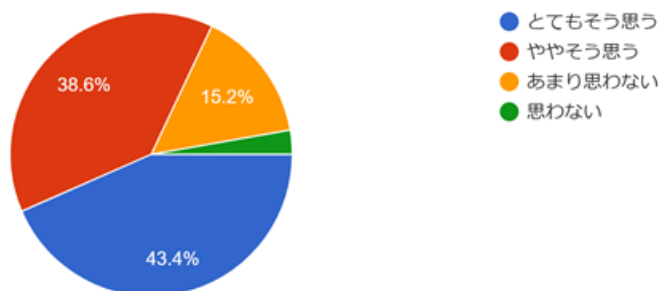
(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・実施していない

(3) 自校における評価（保護者アンケートより）

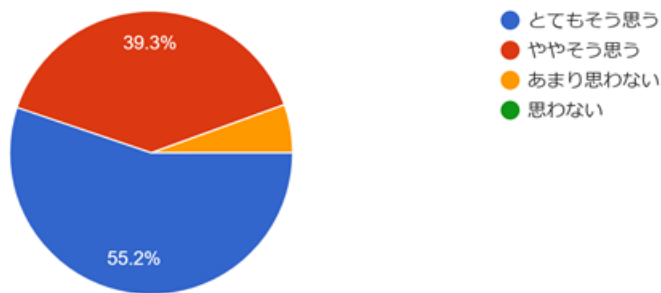
1. 1年生からの英会話学習が、英語によるコミ...的な能力の育成につながっていると思いますか。

145件の回答



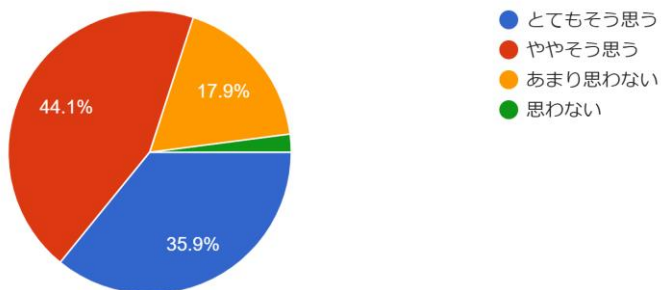
2. 1年生からの英会話学習は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。

145件の回答



3. 1年生からの英会話学習によって、外国語や...に対する興味、関心が高まっていると思いますか。

145件の回答



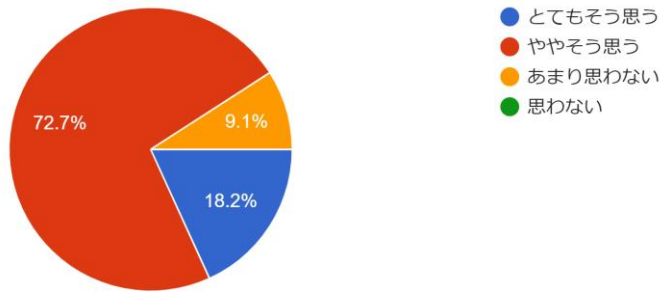
【保護者アンケート・記述より（期待すること）】

- ・英会話が生活の一部として自然に子どもたちの理解につながっていくと良いと思います。
- ・英語学習に対する興味関心を持って欲しいです。
- ・言葉（英語）でコミュニケーションがとれることの楽しさや喜びを味わってほしいです。
- ・ネイティブな発音で自然と英会話ができるようになってほしいです。
- ・学んだことを忘れないように、家庭にも知らせてほしい。成果が実感できるとよいです。
- ・外国のお友達もいるので、英語を身近に感じ、仲良くなるきっかけになれば良いと思います。
- ・異文化に興味を持ったり、いろいろな外国の人に慣れ親しめるきっかけになって欲しいです。
- ・将来の英会話能力につながってほしいです。
- ・英語を話すことへの抵抗がなくなってほしいです。
- ・将来的に必要なので、小さいうちから慣れ親しむことは良いことだと思います。
- ・日本語以外の言語に興味を持って、学びたいという意欲がついてほしいです。
- ・英語でも物怖じせず、自然に話をしようという子になってほしいです。
- ・英語耳になることを期待しています。
- ・「できない」「難しい」と感じないような授業をしてほしいです。
- ・文法を学びだしたときに、すんなり英会話ができるようになるとういと思います。

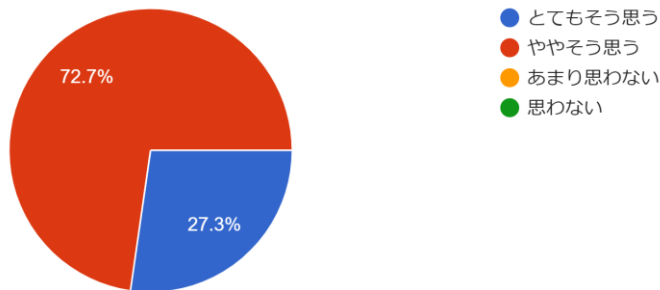
（*記述の内容をまとめました。）

(4) 学校関係者による評価

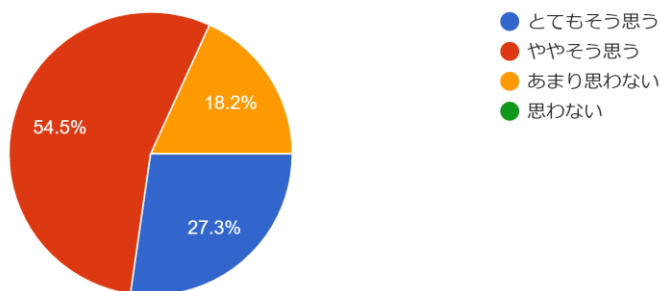
1. 1年生からの英会話学習が英語によるコミュ...的な能力の育成につながっていると思いますか。



2. 1年生からの英会話学習は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。



3. 1年生からの英会話学習によって、外国語や...に対する興味・関心が高まっていると思いますか。



【教員アンケートより（期待したいこと）】

- ・ 英語耳の育成。差別や偏見を持たない心の育成を目指したい。
- ・ 異文化になれ親しむこと。
- ・ 外国の人とコミュニケーションをとることが、楽しくできる素地となること。
- ・ 英語を壁と考えるのではなく、コミュニケーションの1つの方法として楽しんで学べるような機会として取り組ませたい。
- ・ 英語が自然に口に出るようになること。
- ・ 外国語に慣れ親しむこと。そのために、マンネリ化にならないように工夫したいです。

3. 実施の効果及び課題

- ・児童は、低学年から英会話や外国人講師に慣れ親しむことで、英会話を身近なものとして感じていることが伺われる。3年生は英語劇を演じたり、4年生は足利観光案内所を英語で開催したりしている。この様子から、児童が自ら英語を話すことに抵抗が少なくなっていることを感じている。これは、英会話学習の成果だと思う。また、高学年の英語チャレンジDAYでは、一日中、外国人講師と触れ合い、英語を話すことや聞くことを楽しんでいる様子だった。普段の授業でも、ALT や EAA と英会話を楽しみながら学んでいる児童が多いので、中学校での ALT の授業への抵抗も少ないのではないかという期待が持てる。
- ・一方で、「英語は苦手」という意識を持つ児童もいて、「分からないから」「難しいから」という理由で、消極的になっている様子が見られる。低学年の「楽しい英会話」から、「外国語活動」への移行の際のギャップを感じている児童もおり、丁寧な対応が必要だと感じる。
- ・また、期待することとしては、英語塾に行かなくても学校の授業で話せるようになって欲しい、日常生活の中に取り込む英語の授業をしてほしいというような、英会話学習による成果の実感を求める声もあった。英会話への親しみを感じさせるとともに、基本的な技能の定着もより力を入れるところだと感じられた。

4. 課題の改善のための取組の方向性

昨年度までと同様、低学年からの英会話授業は、英会話を身近なものと感じられるよい機会になっていると思う。上学年になるにつれての苦手意識を持たせないように、「楽しい」だけではなく、「わかる」「できる」授業を大切にしていくことが必要だと考えられる。そのためには、各単元のゴール（到達目標）を見据えた授業作りが必要となる。「この単元で何をできるようにしたいのか。」「そのための授業展開はどうあるべきか。」といったことを念頭において、スモールステップを意識した授業を組み立てていくようにしていきたい。さらに、児童の実態を把握するためにも終末での振り返りも大切にしたい。また、児童が英会話を身近に感じられるように、英会話の場面作りには、他教科との関連や、必然性のある場面などを考え、ALT や EAA と打合せをすることが必要だと考えられる。本校は、本年度、4年生以上が英語専科の教員による授業を行っている。教科専科ならではの、より専門性を生かした場面や、その学年の興味関心に合った場면을提案することも考えて実践していきたい。

英語チャレンジDAYでは、今までインプットしてきたものをアウトプットして、「できた。」（話せた、英語が通じた）喜びを感じたり、自信をつけたりする場を設定していきたい。